

○日本国憲法
○教育基本法
○学校教育法
○学習指導要領等

人権尊重の精神を基盤にして、心身ともに健康で知性と感性に富み、広く国際社会において、信頼と尊敬が得られる人間性豊かな児童の育成を目指す。

- ◎すすんで学ぶ子供
○仲良く助け合う子供
○健康で明るい子供

- 児童の願い
- 保護者の願い
- 地域の願い
- 教職員の願い

基礎学力の向上を図りながら、児童の興味や主体性を重視した授業を工夫し自ら学ぶ意欲と態度を養う。

国語科：適切に表現し正確に理解する能力を育てるとともに伝え合う力を高める。

社会科：社会生活についての理解を図り、公民的資質の基礎を養う。

算数科：日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考える能力を育てる。

理科：自然の事物・現象についての理解を図り、科学的な見方や考え方を養う。

生活科：具体的な活動や体験を通して、自立への基礎を養う。

音楽科：音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。

図工科：造形的な創造活動の基礎的な能力を育て、豊かな情操を養う。

家庭科：家庭生活への関心を高め、実践的な態度を育てる。

体育科：運動に親しむ資質や能力を育て、健康の保持増進と体力の向上を図る。

外国語・外国語活動：コミュニケーションの素地や基礎となる資質・能力を養う。

教育目標達成のため、学校施設や特別支援学級の特色、地域の特性を生かし、「今日が楽しく明日が待たれる学校」を合い言葉に、かわりを大切にしたい教育活動を目指す。

「すすんで学ぶ子供」の育成を学校教育目標の一つとし、基礎学力の向上に努めるとともに学ぶ喜びを味わえる指導を工夫し、主体的に問題解決に取り組む児童の育成を目指す。そのために、本校で伸ばしていこうとする児童一人一人の能力を次のように考える。

- 基礎・基本としての知識、技能
○学ぶとす意欲
○自ら課題を見付ける力
○自ら考える力
○主体的に判断する力
○よりよく問題を解決する力

道徳的価値の自覚を深め、
道徳的実践力を培うことに
より、思いやりのある心豊
かな人間性を育てる。

望ましい集団活動を通して、児童の自主性や社会性を育てる。

的力事を欲るし、長る。
主する行意で助伸て。
自ずの育援で育。
て断域しをんを。
し判地加度解す度。
通くに参態理す態。
をしもにる己をる。
生活正と的す自力す。
生、と極動の能と。
団えう積活童やう。
集考養もに児性よ。
にをに的個性し。

し、長い合
助伸てに
援で育態一
解すんを
理する態の
己をる児
の能と、キ
童やうもた
児しよとせ
個しとわを

自ら課題を見付け、それを主体的に追究し、生活などに活かす活動を通して、自己の生き方を考えることができるようにする。

自己の生き方について
考え、道徳的判断力・心
情・実践意欲と態度を育
てる。

立場や意図を明確にして工夫して書き表す力や学習した漢字を正しく使う力の育成を図る。

＜授業改善に向けての取り組み＞

指導内容・方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内研究・研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域との連携の工夫
- 年間を見通した指導計画を作成し、随時点検、修正、改善を行う。 - 少人数指導の活用できめ細かい指導を図る。 - 習熟の時間を設け、基礎的・基本的な内容の定着を図る。 - 日常の各教科の学習で、言語活動を促す。 - 学習課題に対する興味・関心を高める指導の工夫に努める。 - 習熟度別指導を計画的に行い、個に応じた指導の工夫に努める。 - タブレット端末などを活用し、視覚的な情報を提示し、理解を深める。 - 問題解決的な学習の流れに沿った授業を行うとともに、授業形態の工夫を行う。	- 授業時数を確保する。 - 朝の国語モジュールの時間に漢字や短作の学習を計画的に行い、基礎的・基本的な内容の定着と意欲向上を図る。 - 体育発表会、持久走大会、長縄集会、短縄集会を実施するなど、全校で取り組める活動を設定し、児童の体力増進を図る。 - 学習効果が発揮されない児童に負担過重とならないように、行事を組む。 - 教育実践をするにあたり、学習活動が有効であったかどうかを振り返り、行事や会議を精選していく。 - 特別支援教室での巡回指導を行い、個別に配慮が必要な児童の支援を、校内体制で行う。	- 児童が交流する場面を一時間の授業の中に取り入れ、指導形態を工夫し授業改善に努める。 - 令和4・5年度練馬区教育委員会教育課題研究指定校として、研究主題「主体的に考え、表現する児童の育成」を目指し、算数科における研究の成果と課題を発表した。昨年度は、国語科において「話す・聞く力の育成」を主題とし、研究授業・協議会を行った。研究の成果と課題を授業改善に生かす。 - タブレット端末を活用して児童が主体的に考え表現する学習形態を工夫する。 - 外部の研修会や研究授業に参加し、指導力の向上に努める。 - 定期的、継続的にOJTを企画、実施する。	- 各教科における評価計画および評価規準表の見直しを図り、適切な評価活動を行う。 - 評価の重点化を図り、児童の学びの姿に応じた支援内容を工夫する。 - 学習カードの活用により個の見取りの充実に実や学習活動について児童自身が振り返る自己評価の力の育成に努める。 - 外部評価や行事・学校公開での保護者からの評価を生かして、教育活動への改善に努める。	- 学校経営方針や様々な情報を文書・保護者会・ホームページなどで提供し協力を求める。 - 学校便り・学年学級便り・保護者会等を通して互いに連携し合い、児童の生活習慣の確立や家庭学習の習慣化などの定着を図る。 - 地域のボランティアの方々をゲストティーチャーとして活動を行い効果的かつ有効的な教育活動に取り組む。 - 保護者、地域防災連絡会との連携のもと、防災教育を実施する。 - 地域の方々と体験的活動を実施する。 - 道徳授業地区公開講座の実施 - 保育園とのかかわり - 光が丘公園の活用 - 外部評価や授業公開、学校行事での保護者地域の方々の評価を教育活動に生かしていく。
			小中一貫教育の視点 - 校区别協議会において小中学校の情報を共有する。 - 課題改善カリキュラムを活用して9年間を見通しをもち、授業改善に努める。	

＜授業改善策の検証方法＞

- ・児童、保護者、教職員による授業アンケートを実施し、各部会・分掌で成果と課題を話し合い、次年度に生かす。
- ・定期的・継続的に授業を公開し合う。校内研究会において共通の視点に沿って協議を行い、成果と課題を考察する。OJT 研修会において、情報を共有したり改善策を話し合ったりする。
- ・モジュールにおける漢字や短作文の定着を検証するために、漢字テストや意識調査を行い、分析・考察する。